

# 第 1 章 調査の概要

## 1 調査の目的

松江市では、令和元年度から、文化財保護法の改正により新たに規定された文化財行政の総合計画である「文化財保存活用地域計画」の作成に着手し、令和3年12月に文化庁長官の認定を受けた。

同計画作成にあたっては、歴史文化の特徴を全市的に把握、明らかにすることが求められるが、松江市では、地域の歴史文化の特質と現状を明らかにする上で必須の文化財として、社寺建築を位置付けるとともに、今後の文化財保護の基礎資料とするため、令和2年度、3年度の2ヶ年にわたり、松江市内の社寺建築についての悉皆調査を実施した。

なお、令和3年度調査については、文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の採択を受け実施した。

## 2 調査の体制

調査体制は以下のとおりである。

松江市歴史まちづくり部

部長 須山敏之（～令和3年5月）

松尾純一（令和3年6月～）

次長 稲田 信（～令和3年3月）

松尾純一（～令和3年5月）

井上雅雄（令和3年6月～）

文化財総合コーディネーター 丹羽野 裕

松江城調査研究室長 稲田 信（～令和3年3月）

（史料調査課長） 飯塚康行（令和3年4月～）

同室調査研究係長 藤井 一

同室同係主幹 寺本 康（令和3年4月～）

同室主任行政専門員 永島真吾（令和3年10月～）

同室主事 高吉沙季（～令和3年5月）

同室主事 築 悠子（令和3年6月～）

同室歴史史料専門調査員 佐藤綾子

松江城部会長 西尾克己

同室会計年度任用職員 小原潤子（令和3年7月～）

史料調査課主任 小山祥子

同課副主任行政専門員 稲田 信（令和3年4月～）

同課歴史史料専門調査員 村角紀子

同課歴史史料専門調査員 高橋真千子

同課会計年度任用職員 岩根栄子

奈良文化財研究所（所属は令和3年度時点）

文化遺産部建造物研究室長 大林 潤

同室特任研究員 島田敏男

## 3 調査内容

### （1）調査対象

松江市内の宗教法人登録されている仏教寺院、神社および、住宅地図に記載されている宗教施設について、建築年代や建物の規模に関わらず、敷地内の全建物を対象とする。また、現地調査の際に、住宅地図不記載の建築を確認した場合は、それについても調査をおこなった。

なお、近代以後の新興宗教施設については対象外とした。

### （2）調査方法

上記の調査対象物件について、現地で調書の作成、外観写真の撮影、位置の記録をおこなった。調査は調査物件の外観の目視観察を基本とし、建築年代に関しては市町村誌等の文献資料や既存の調査報告書、敷地内の案内文等を参考とした（章末参考文献参照）。現地調査終了後、一覧表および物件分布図を作成し、写真データは現地調査時に付与した番号毎に整理した。

調査方法の詳細は以下の通りである。

#### ①調査対象物件の確認

宗教法人登録一覧や、住宅地図上記載の名称・地図記号などを基に、住宅地図上で調査対象となりうる物件の位置を確認する。

#### ②物件番号・建物番号の付与

物件番号は、宗教法人1件に対してひとつの番号を付す。宗教法人登録外の物件についても個々の番号を付す。番号は、調査順に001からの3桁の通し番号とする。

各法人の敷地内にある建物については、それぞれにひとつずつの建物番号を付す。建物番号は2桁の通し番号とし、物件番号－建物番号の順に表示する。すなわち、個々の建物は「○○○－○○」の番号が与えられることとなる。

#### ③配置図の作成

住宅地図上の当該物件が記された頁に、調査対象の

松江市社寺悉皆調査票										No.
物件番号	建物番号	所在地 <small>(市町村指定)</small>	法人番号	社寺名	宗派	建物名称	建立年代	資料	指定・登録／報告書	国指定・県指定・市町村指定・登録 近世社寺・近代化遺産・近代和風、その他
構造形式							特徴		二次調査	
物件番号	建物番号	所在地 <small>(市町村指定)</small>	法人番号	社寺名	宗派	建物名称	建立年代	資料	指定・登録／報告書	国指定・県指定・市町村指定・登録 近世社寺・近代化遺産・近代和風、その他
構造形式							特徴		二次調査	
物件番号	建物番号	所在地 <small>(市町村指定)</small>	法人番号	社寺名	宗派	建物名称	建立年代	資料	指定・登録／報告書	国指定・県指定・市町村指定・登録 近世社寺・近代化遺産・近代和風、その他
構造形式							特徴		二次調査	
物件番号	建物番号	所在地 <small>(市町村指定)</small>	法人番号	社寺名	宗派	建物名称	建立年代	資料	指定・登録／報告書	国指定・県指定・市町村指定・登録 近世社寺・近代化遺産・近代和風、その他
構造形式							特徴		二次調査	
物件番号	建物番号	所在地 <small>(市町村指定)</small>	法人番号	社寺名	宗派	建物名称	建立年代	資料	指定・登録／報告書	国指定・県指定・市町村指定・登録 近世社寺・近代化遺産・近代和風、その他
構造形式							特徴		二次調査	

調査日 年 月 日 調査員 ( )

図 1-1 悉皆調査調査票

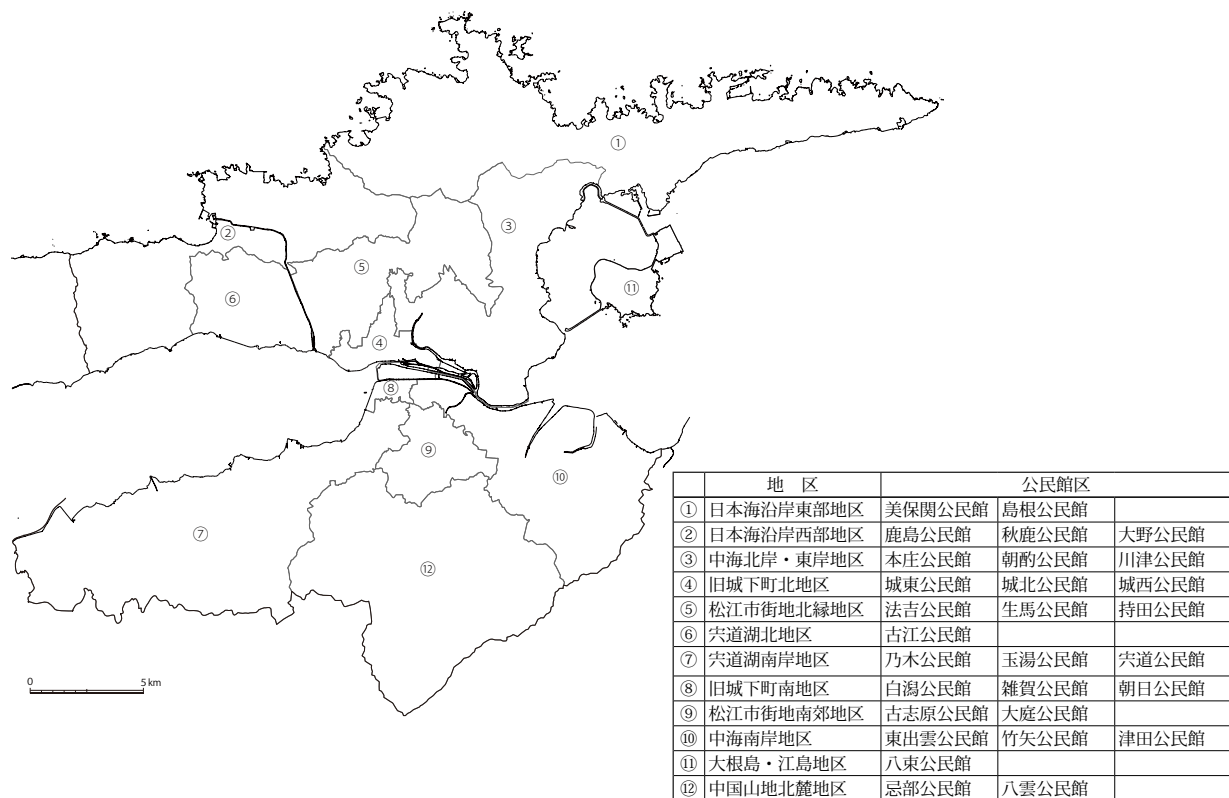


図 1-2 松江市全図および 12 の地区

配置図を描き加え、物件番号・建物番号を記入する。

#### ④調査書の作成

現地で確認した建物について、あらかじめ用意した調査用紙(図 1-1)に調査事項を記入した。調査項目は、物件番号、建物番号、所在(住宅地図の頁)、宗教法人番号、社寺名、宗派、建物名称、建立年代、資料、指定および既報告の有無、構造形式、特徴、二次調査の要否とした。

各項目についての記載情報は以下の要件に従った。

**社寺名** 宗教法人登録されている社寺については、登録されている名称とした。宗教法人登録されていない物件については、現地で掲示されている名称とした。いずれも確認できない場合は、住宅地図記載の名称とした。上記いずれの名称も不明の場合は、現地周辺の看板等に表記されている名称や、建物の形状などから調査者の判断により適宜名称を記入した。

**建物名** 本堂、庫裏等、建物の形式や配置等から推定される建物名を、調査者の判断により記入した。案内図や額・札等で建物名が特定できる場合は、その表記に従った。

**建立年代** 外観の目視観察により、建物の建立年代を推定した。判断基準は、建物の形式、絵様線形の年代観、部材の風蝕等による。ただし、棟札、寄進板、石碑銘、聞き取り等で建築年代が明確なものは、「資料」欄にその内容を記す。また、過去の調査および市町村誌等の文献資料、説明板等に記された建築年代が首肯される場合は、「資料」欄にその出典を示す。年代区分は、19世紀中期以前は各世紀を3分割し、前期・中期・後期とし、それ以後は、明治前期・後期、大正、昭和前期(およそ昭和30年代まで)・後期、平成、令和とした。

**構造形式** 文化庁が使用する構造形式の表記に従い、建築規模(桁行および梁間)、屋根形式、屋根葺材を記入する。建築規模は、柱間数では規模を表現できない建物については、1間長=約1.8mを基準に目測により○間長と表記する。

**特徴** 当該物件の特徴について特記すべきものがある場合のみ記入する。二次調査(詳細調査)の必要性が認められるものはその理由を簡潔に記す。

**二次調査** 現地調査時に、建築年代が古いもの、技

術的に優れているもの、地域を代表する特徴をもつものなど、今後詳細な調査をする必要があると判断される物件について記録する。

#### ④写真撮影

各建築について、全景、中景、細部について、写真撮影をおこなった。

#### ⑤調査成果の整理

上記で作成した調査書をもとに、一覧表を作成した。写真データは、ファイル名を、物件番号-建物番号-写真番号(000-00-00.jpg)となるよう整理した。

### (3) 調査物件数と地区区分

上記の調査方法によって、現地調査で確認した調査物件は合計695件、建物数は2,495棟を確認した。そのうち、寺院系建築は995棟、神社系建築は1,500棟である。なお、寺院境内にある鎮守社等の社殿建築は、寺院に属するものとして寺院系建築に含めた。また、歳徳宮(歳徳神神輿)を収蔵する歳徳庫(神輿蔵)は神社系建築に含めた。

本報告書では調査で確認した各建築について、松江市内の29の公民館区を基とした12の地区に区分して整理した(図1-2)。各地区の調査建物棟数と寺院系、神社系建造物の内訳を表1-1に示す。

巻末には悉皆調査で確認した物件の位置図と、地区ごとの調査物件一覧表を付した。なお、物件番号は悉皆調査時に付した番号をそのまま記載し、地区毎に番号の振り直しはおこなっていない。

表 1-1 各地区の調査物件数

	地区名	寺院系建築	神社系建築	合計
①	日本海沿岸東部地区	86	254	340
②	日本海沿岸西部地区	111	221	332
③	中海北岸・東岸地区	104	114	218
④	旧城下町北地区	131	86	217
⑤	松江市街地北縁地区	50	94	144
⑥	宍道湖北地区	43	50	93
⑦	宍道湖南岸地区	112	243	355
⑧	旧城下町南地区	136	52	188
⑨	松江市街地南郊地区	31	65	96
⑩	中海南岸地区	103	176	279
⑪	大根島・江島地区	35	35	70
⑫	中国山地北麓地区	53	110	163
	合計	995	1,500	2,495

表 1-2 調査経過

調査日	調査地	調査者
令和2年		
11月17日	旧松江市	島田
11月18日	月照寺	島田
12月16～18日	旧松江市（南部）	島田・藤井
令和3年		
1月25日	旧松江市（南部・北部）	島田・藤井
2月26・27日	旧松江市（北部）	島田・藤井
2月7・8日	旧松江市（寺町周辺）	島田
2月9・10日	旧松江市（北部）	島田・藤井
3月3・4日	旧松江市（北部）	島田・藤井
5月11日	旧東出雲町	島田
5月12日	旧東出雲町・旧八雲村	島田・高橋
5月13日	旧八雲村・旧玉湯町	島田・寺本
5月14日	旧玉湯村・旧宍道町	島田・稲田
5月26日	旧鹿島町	島田・寺本
5月27日	旧鹿島町・旧島根町	島田・寺本
5月28日	旧宍道町	島田・稲田
6月2日	旧美保関町	大林・小山
6月3日	旧美保関町	大林・高橋
6月23日	旧美保関町	島田・高橋
6月24日	旧島根町・旧八束町	島田・寺本

## 4 調査経過

調査経過及び調査地を表 1-2 に示す。

## 5 報告書の作成

報告書は以下のように執筆を分担した。

第1章 1 藤井・大林

第2章 3 島田

上記以外 大林

編集は藤井・大林がおこない、資料整理・編集を川口左知子（奈良文化財研究所技術補佐員）、西尾尚子（同）が補佐した。

表紙の写真は、杉本和樹（西大寺フォト）が撮影した。本文中で使用した写真は、島田・大林が撮影した。本文中の図は、大林・島田・川口が作成した。分布図等の地図は、国土地理院基盤地図情報を加工して使用した。

### 参考文献

- 『島根県近世寺建築緊急調査報告書』島根県教育委員会、1980年。
- 島根県教育庁文化財課編『島根県の近代和風建築 — 島根県近代和風建築総合調査事業報告書—』島根県教育委員会、2018年。
- 奈良文化財研究所編『出雲市内神社建造物調査報告書』

- 出雲市、2018年。
- 奈良文化財研究所編『松江神社建造物調査報告書』松江市、2021年。
- 『重要文化財佐太神社正中殿ほか二棟保存修理工事報告書』宗教法人佐太神社、2016年。
- 『重要文化財神魂神社末社貴布禰・稲荷両神社本殿修理工事報告書』神魂神社、1978年。
- 『重要文化財美保神社本殿修理工事報告書』美保神社、1995年。
- 内田兼四郎『松江城 歴代藩主の菩提寺』1980年。
- 和田嘉宥『松江藩御作事所と御大工に関する研究』私家版、2001年。
- 西島太郎『松江藩の基礎的研究—城下町の形成と京極氏・松平氏—』近世史研究叢書 41、有限会社岩田書院、2015年。
- 長瀬学栄『風土記時代と律令の東出雲町 東泉寺沿革史』1985年。
- 『金寶山弘長禅寺 阿弥陀如来坐像』弘長禅寺・弘長禅寺護持会、2005年。
- 『神國島根』島根県神社庁、1981年。
- 奥原福市『島根縣秋鹿村誌』秋鹿村教育会、1922年。
- 上野富太郎、野津静一郎編『松江市誌』松江市、1941年。
- 『玉湯町史 上巻』島根県八束郡玉湯町、1961年。
- 田中芳夫、古瀬美延、青山兵重、幡垣保幸編『鹿島町誌』鹿島町、1962年。
- 東出雲町誌編さん委員会編『東出雲町誌』東出雲町役場総務課、1978年。
- 玉湯町史下巻（一）編さん委員会編『玉湯町史 下巻（一）』島根県八束郡玉湯町、1982年。
- 美保関町誌編さん委員会編『美保関町誌 上巻』美保関町、1986年。
- 『八束町誌』八束町教育委員会、1992年。
- 八雲村誌編集部編『八雲村誌』八雲村、1998年。
- 宍道町史編纂委員会編『宍道町史 通史編 下巻』宍道町、2004年。
- 松江市誌編集委員会編『松江市史 別編2 民俗』松江市、2015年。
- 松江市誌編集委員会編『松江市史 通史編 4 近世Ⅱ』松江市、2020年。
- 宍道町史編纂委員会編『宍道町史料目録Ⅱ』宍道町・宍道町教育委員会、2002年。
- 『松江市内寺社史料調査目録 一平成22年度～平成25年度—』松江市教育委員会文化財課（史料編纂室）、2014年。
- 『史跡松江藩主松平家墓所保存管理計画書』松江市教育委員会、2000年。
- 財団法人文化財建造物保存術協会編『重要文化財神魂神社末社貴布禰稲荷両神社本殿修理工事報告書』神魂神社、1977年。
- 財団法人文化財建造物保存術協会編『重要文化財美保神社本殿修理工事報告書』美保神社、1995年。
- 公益財団法人文化財建造物保存術協会編『重要文化財佐太神社正中殿ほか二棟保存修理工事報告書』宗教法人佐太神社、2016年。